

特集 障害を笑いに変える

「笑われる」から「笑わせる」へ

—障害者文化の新しい拡がり（倉本智明）

障害者観の革命

—バリバラ“障害者情報バラエティー”の目指すもの—（玉木幸則）

「笑う力～ユーモアの大切さ」べてるの家の笑いと

当事者研究（伊藤知之）

障害者プロレスラーとして（鶴園 誠）

松本ハウスは障害をどう笑うか？（松本キック）

ホーキング青山, 20年目の笑い（ホーキング青山）

障害は面白い。（中原 忠）

福の神おかめ？（花田春兆）

#### 4割は高齢者世帯, 「単独」でも増加

2035年推計（社人研）

国立社会保障・人口問題研究所が1月18日に発表した「日本の世帯数の将来推計」で、2035年には高齢者世帯が4割になることが分かった。推計は5年に1度実施しているもので、今回は2010年の国勢調査などをもとに作成した。

推計によると、国内の世帯数は10年が5,184万世帯と上昇傾向だが、19年の5,307万世帯をピークに減少に転じる。人口はすでに減少傾向にあるが、一人暮らしの増加や晩婚化、離婚の増加などにより、

世帯数自体は今後も増え続ける。

同時に世帯主の高齢化は加速する。65歳以上の高齢者世帯の割合は2010年が31.2%で、2035年には40.8%に達するという。特に、高齢者世帯のうち、単独世帯は2010年の498万世帯から762万世帯へと1.53倍に。一人親と子どもの世帯も、133万世帯から201万世帯へと1.52倍増える。

（福祉新聞・第2609号 2013年2月11日）